

1~5面 伝わるコトバの方程式

- 6面 オリーブ収穫プログラム
- 7面 インドYWCA全国総会レポート

The Young Women's Christian Association

YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

4

APRIL
2018
No.743

www.ywca.or.jp

その
想い、

ちゃんと
届いて
いますか



憲法を学ぼう!

～改憲させない私のメソッド～



いま、私たちの大切な憲法が変えられようとしています。
自民党の改憲案に改憲されてしまったら、
私たちの暮らしが大変なことになります。

平和憲法をまもろう!
子どもたちの未来を守ろう!

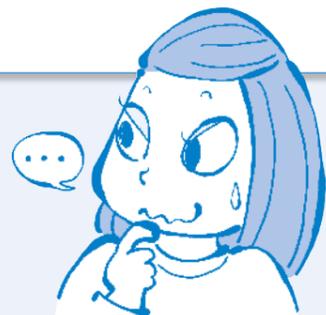
今こそ学んで
一緒に声をあげましょう!



日 時: 3月10日(土) 13:00~
※終了後、街頭アピールをします!ぜひ参加してください!
場 所: 日本YWCA
講 師: 和井田若子 先生
参加費: 500円(茶菓子付き)
申込み方法: 下記のTEL、FAX、E-mailにてお名前、人数をお知らせください。
締切日: 3月1日(木)

公益財団法人日本YWCA
E-mail: office-japan@ywca.or.jp / Tel: 3292-6121 / Fax: 3292-6122

「伝えたつもりが、伝わってなかった」
身近な人とのコミュニケーションでも、
よくあるすれ違いです。
私たちが外部に向かって発信するときは
どうでしょう?
催しの参加を呼びかけても「人が集まらない」、
活動をアピールしても「輪が広がらない」——
それは、発信している情報が、伝えたい相手に
「伝わってなかった」からかもしれません。
そこで今回は、なぜ伝わらないのかを見直しながら、
相手に「伝わるコトバ」のコツを提案します。
なにかと発信したい季節です。
その想い、相手に届けてみませんか。



イラスト/大島史子

エンパワーするNGO



『絵本で感じる憲法
ありのままのあなたが大切』

山崎 翠 / 著 大月書店 / 発行 1500円+税

YWCA
の本棚



著者は、長年家庭文庫を開き、地域の子ど
もたちに読み語り活動をしてきました。私自
身も子どもの頃から絵本に親しみ、また親に
なつてからも子どもたちに絵本を読み聞か
せてきました。また若い頃に日本国憲法の理
念に感銘を受け、その精神を大切にしたいと
思ってきました。しかし、私の中で絵本と憲

法は、はつきりと結びついていませんでした。
この本の存在を知った私は、すぐに取り寄せ
ました。
著者はある時、弁護士伊藤真さんの本
を通して、憲法13条の「すべて国民は、個人
として尊重される」の意味が、「誰もが個人と
して大切にされるべきだ」と分かったのだ
そうです。この13条のメッセージこそ、著者
が絵本を読む時に大切にしてきたこととし
た。著者は言います。日本国憲法も絵本も
根っこは同じ、「一番大切なものとして」「一
人ひとりのあなたが大切」というメッセージが
あるんだ、と。
憲法の本質を知った著者は長年の絵本体
験を振り返り、絵本を選び本書に納めまし
た。その一冊一冊を自らの経験とエピソード

をまじえながら紹介し、「一人ひとりが皆そ
のまま大切」「一人ひとりを大切にすると社
会とは」と、誰にでも分かる言葉で問いかけ
ています。
ともすると難しくとらえられがちな日本
国憲法ですが、私たちが絵本を通して子ど
もたちに手渡したいものと根っこは同じな
のだとすれば、それは、私たち人類が生きて
いく上で大切にしたいことを定めたもの、手
放してはいけない宝ものであるのだと思ひ
ます。私たちが手にしているこの憲法の意味
を、絵本を仲立ちにしてもっと多くの人と
身近に引き寄せて考えることができるので
はないでしょうか。

編集部 西文字

ご協力ありがとうございます

賛助費
乾康子 河村双葉 三股まさ子
仙波容子 大野綾子 由良喜久子
藤井初子 宮城崇美子
日本バプテスマ同盟東京平和教会
駒込チャペル
日本基督教団ひばりが丘教会

ピースメーカーズ基金
(平和を創り出す女性のリーダー
シップ養成)
西文字 井上典子 野崎斐子
藤井初子 高橋朋子 三股まさ子
近藤秀樹 近藤弘江 堀内香代子
尾崎裕美子
恵泉女学院中学・高等学校宗教部
東洋英和女学院 中野部 宗教委員会
山梨英和中学校・高等学校
ルーテル学院中学・高等学校
福岡女学院中学校高等学校 宗教部
普通連士学園中学校高等学校 宗教委
員会
女子聖学院
東洋英和女学院中野部 宗教委員会

捜真バプテスマ教会
学校法人横浜英和学院
学校法人女子学院
福島YWCA
甲府YWCA
東京YWCA国領センター
東京YWCAお盆堂とお菓子作りの会
公益財団法人神戸YWCA
公益財団法人福岡YWCA

災害時支援基金
(国内外の災害被災者支援)
井上典子 藤井初子 三股まさ子
福島YWCA
東京YWCAまきは保育園
公益財団法人神戸YWCA
公益財団法人福岡YWCA

(オリーブの木キャンペーン募金)
岡戸純 清水南 金井淑子
小林聡 藤田茜 井上典子
丸山浩 渡邊順子 阿部幸子
木村浩一 齋藤喜子 中村由里
比企敦子 大野綾子 遠藤恵美子
藤井初子 小林征子 富岡美知子
永吉敏子 三股まさ子 添野ふみ子
日本キリスト教団扇町教会

福島YWCA
一般財団法人函館YWCA
長崎YWCA
(熊本地震被災者支援基金)
東日本大震災被災者支援基金
牧野 田中倍子 吉田亜希
森島子 丸山昇 金井淑子
小林聡 藤田茜 井田すみ
乾康子 古西正子 野村春江
山本鉄子 下村昭子 阿部幸子
仙波容子 木村浩一 齋藤喜子
幸田良子 中村由里 三股まさ子
比企敦子 堀内和子 仁木三智子
大野綾子 萩尾出穂 由良喜久子
藤井初子 河内常男 嶋崎紀代子
永吉敏子 ランドスハル
地球つ子くらぶ・善隣館
玉川聖学院
広島女学院中学校・高等学校
とわの森三愛高等学校 生徒・教職
員一同
尚綱学院高等学校
福岡女学院中学校高等学校 宗教部
シオン幼稚園

大阪女学院中等学校 宗教部
学校法人アルウィン学園 玉成保育
専門学校
梅花中学校・高等学校
東洋英和女学院大学 大学宗教委員会
日本基督教団聖ヶ丘教会
日本福音ルーテル小石川教会 婦人会
日本キリスト教団東新湯教会
日本聖公会石橋聖トマス教会
日本聖公会南藤聖ミカエル教会
日本キリスト教団扇町教会
日本基督教団市三本松教会
日本基督教団新湯教会
日本バプテスマ同盟日野神明キリス
ト教会
日本キリスト教団仙台市民教会
日本キリスト教団千葉教会
日本キリスト教団西千葉教会
日本キリスト教団京都市大町教会
福島YWCA
甲府YWCA
公益財団法人神戸YWCA
公益財団法人長崎YWCA
(2017年12月16日~2018年
2月15日現在 敬称略)

お詫びと訂正
2月号にて誤りが
ありました。
1面
(誤) 1946年11月3日(発布)
1947年5月3日(公布)
(正) 1946年11月3日(公布)
1947年5月3日(施行)
2面
(誤) 「あすの自由を考える若手
弁護士の会」
(正) 「明日の自由を守る若手弁
護士の会」
読者と関係者の皆さまに
お詫びして訂正いたします。

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 Fax. 03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp 無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。



教会メディアの仕掛人
松谷信司さん

視点を 変えれば、 想いが届く ファンが広がる

「若者が来ない」「教会員の高齢化」——キリスト教の教会も私たちと同じ課題を抱えています。キリスト教メディアという特殊な業界で、外部の若者に向けて教会の魅力をさまざまなカタチで発信しているキリスト新聞社の松谷信司さんに「伝えるコトバ」のコツを教えていただきました。

伝えるコトバ の 方程式

ko+to×ba

伝える コトバ 「鏡」

相手に何かを伝えようとする際、「どう見てもらうか」を考えがちです。まずは、外部（第三者）から「あなた自身がどう見られているのか」、何が求められ、期待されているのか——そうした自身のイメージや客観的な評価を正しく把握することが必要です。

『泣いた赤鬼』（浜田廣介作）という有名な童話があります。人間と仲良くなりたい

ko+to×ba

と願う赤鬼が、戸口の前に

「ココロノヤサシイ オニノウチデス

ドナクデモ オイデクダサイ」

と書いた立て札を掲げたのに、警戒して誰も訪ねてきてくれないという切ないシーン。

皆さんは世間からどのように見られているでしょうか。その点をまずはしっかりと見定めなければ、どんな発信が必要かも検討できません。そこから、あえてイメージを覆すのか、より強固なイメージを確立するのか、といった戦略が生まれます。人々にどんな印象を与え、ファンになってもらうか——最近では多くの企業で、こうしたブランド戦略が行われています。

外部の評価やイメージを知るために、手軽に誰にでもできるのがツイッターやネット上での「エゴサーチ」です。自身の名前などを入力して検索する方法で、より広く世間一般の意見を聞くことができます。そもそも検索して何も出てこない状況であれば、大いに危機意識を持つべきです。デジタルネイティブと呼ばれる若い世代にとって、ネット上にはないものは存在しないに等しいからです。

伝える コトバ 「入りやすい飲食店」

ko+to×ba

「気になるけど、入りにくい」と思わせるお店があります。ご自身の体験から想像



「新しい人に来てほしい」と思いつつも、「どうせいつものメンバーしか来ないだろう」「そんなに来ないだろう」などと無意識に諦めていますか。そうした想いが「看板」ににじみ出てはいませんか。

伝える コトバ 「キャッチコピー」

ko+to×ba

仕事柄、個人的に教会関係の宣伝物の作成を依頼されることがあります。その際によく言われるのが、「あれもこれも伝えた」。催しの案内だけでなく、教会の特徴、

日曜礼拝の案内、献金の呼びかけ、自慢の教会堂の写真——1枚、あるいは1ページに「あふれる想い」を盛り込もうとする犯しがちな過ちです。

日常のコミュニケーションに置き換えてみましょう。例えば初対面の自己紹介で、過剰に自分をアピールする人がいたらどうでしょう。仕事や趣味など公私にわたる多彩な活動、ライフスタイルのこだわり……あれこれアピールしたという微妙な印象だけを残し、結局「よく分からないけど、押し強い人」で済まされてしまいます。目的に応じて、伝えたい相手に「一番伝えたいこと」は何かを考えてみましょう。

伝える コトバ 「信頼できるアパレルの店員」

ko+to×ba

長文ではなく、キャッチコピーのような短いひとことで表わすのがポイントです。

YWCAを含めてNGOが発行する定期刊行物では、団体のことや活動について紹介する記事が定番です。関係者や支援者に向けた報告でしょうか、外部に向けたアピールでしょうか。得てして「私たちはこんなに素晴らしい」と強調されています。このアピールが逆効果になる場合があります。

してみてください。「店内の様子が見えない」「値段が分からない」「ところで何屋さん?」「飲み系? 食事系?」メニューが知りたい」「敷居が高そう」「常連ばかりで一人さんは居心地が悪そう」——。結局、実像が分からないまま立ち去ります。

「入りにくい」と思わせてしまう「催しの案内」にもまったく同様のことが言えます。例えば会場の施設名を明記するだけで場所を示す情報（住所、最寄り駅など）が書かれていなければ、外部の人には所在の見当が付きません。専門用語や組織内の日常語の使用も同様です。主催側にそのつもりはなくても「この表現で分かる人たち（常連・内輪）の催しです」と伝えているようなものです。無料だからといって料金について何も書かないのは不親切です。憲法や聖書など専門的な勉強会であれば、初心者でも参加できるのか、どれくらいの知識が必要なのかも気になるところです。案内外抜け落ちがちなのが終了時間です。いつ終わるか分からないのは不安です。

些末なことかもしれませんが、特定の団体が主催する催しに外側の人が入っていくには勇気が必要です。不安を取り除いてくれる小さな配慮の有無が、「入りやすさ」の重要な指標になります。さらに「自分にも開かれている」と感じられるのは「初心者歓迎」「どなたもどうぞ」といった、ささやかなひと言だったりするのです。逆に相手の逃げ道を用意した「出入り自由」部分参加可も明記したいところです。

アパレルの店員さんに例えてみましょう。客の心理としては、売りたい商品を提示し、良さばかりを強引にアピールされても、どうも信用できません。他方、信頼できる店員さんは、客がほしいものを提示して、商品について客観的に説明します。それが生活シーンにどう役立つか、コーディネートなどの仕方など具体的な説明をした上で、あえてデメリットも伝えます。客観的かつ顧客目線の店員さんに出会えると、安心して買物ができますし、リピートしたくなるものです。

当事者（主催者）としての主観を一旦脇に置き、一歩退いて客観的な情報を提供する。いかに客観視できるか、読み手の視点に立てるか——これこそ、私たちの発信に必要な姿勢ではないでしょうか。

伝える コトバ 「ラブレター」

ko+to×ba

その想いを本気で相手に届けたいなら、「誰に」伝えるのかを明確にして、その相手を「知る」ことです。

宣伝のプロであるクリエイティブディレクターの嶋浩一郎さん（博報堂ケトル代表）は「相手に合わせた言葉選び」の重要性を説いています。

「内容はいいのに、相手に伝わらない」と思う時こそ要注意。そういう人は内容の良さに捉われて無意識のうちに「独りよがりの言葉」で語っていると指摘します。

「伝わるコトバの方程式」を参考にチラシを作成してみました。目指したのは「ステキなもの」や「上手なもの」ではなく「伝わるもの」。想いの丈や情報を整理して、届けたい相手の目線になって、相手を想う——難しいようですが、案外ワクワクする作業でした。正解がないからこそ、伝える側も楽しみながら、さまざまな発信にチャレンジしよう。

チラシ作りに挑戦しよう!

チラシのコンセプト

催しの目的

日本国憲法を知って関心を持ってもらうこと

チラシの目的

この催しに足を運んでもらうこと

参加するとどうなるか

- 憲法を身近に感じ、関心を持つことができる
- 自分には人間らしく生きる自由と権利があること、それが憲法によって保障されていることが分かり、エンパワーされる

イベントの内容

対象の女性たちが日常の中で感じている社会に対するモヤモヤを共有し、憲法に照らし合わせて解決の糸口を考える。ナビゲーターは弁護士

一番伝えたいことは何か

あなた(対象)に関係のある催しです

対象にどう見られているか

- YWCA?なにそれ、YMCAの女性版?



伝える時に決してやってはいけないことなのです。そこで、「相手に合わせた言葉選び」。伝えたい相手の年齢、世代、社会的な立場などに応じた言葉で語ることが求められます。

この場合の「相手に合わせる」とは、妥協や迎合ではありません。先述のように、相手が自分のことをどう思っているか、どう見ているかを正しく把握した上で、相手はどういった人なのかをリサーチします。そのようにして相手の想い、相手に最も響く言葉を考えるその行為は、まさに「ラブレター」です。相手ではなく自身を想って一方的に綴った言葉は、決して届きません。残念ながら、片想いで終わってしまうでしょう。

伝わるコトバでファン層を広げよう

教会は「敷居が高い」と言われます。キリスト教メディアという特殊な業界に身を置きながら、多くの方々との出会いを通して、教会の内と外を隔てる「敷居」の正体について日々考えてきました。見えてきたのは、「教会側が発信している(伝えたい)情報」と、「教会の外側にいる人々が欲している(知りたい)情報」との大きなズレです。実は高いと思っていた「敷居」は、単純にこのズレに起因していたのではないのでしょうか。

松谷 信司

Shinji Matsutani

profile

キリスト新聞社社長

1976年生まれ。大学卒業後、テレビ朝日報道スタッフ、立教小学校教員を経て、2006年キリスト新聞社入社。『Ministry』編集長、『キリスト新聞』編集長。17年に同社社長に就任。同年、創刊71年目の業界紙『キリスト新聞』を教会の内外に向けた情報紙にリニューアル。キリスト教を題材にした各種ゲーム、マンガ、アプリなど多数開発。著書に『キリスト教のリアル』(ポプラ社)ほか。ミッションスクールや教会、関連団体などで講演多数。

このズレが、よき友になり得る「知りたいけど、信じるつもりはない」という人々を遠ざけてきたのかもしれない。内部の人々が「来れば良さが分かるのに」「実は親しみやすいのに」といくら思っているでも、まず入りやすさとその魅力が伝わらなければ、人は来ません。これまでの伝え方をただ繰り返すだけでは、その状況が変わることはないでしょう。逆に、伝え方を変えれば、伝える対象も広がります。これまでは、伝えたい内容に関心のある人、積極的に関わりたいと思う人しか届かなかったコトバが、「そこまで熱心でなくても何となく気になっている」人々にも届くようになり、「ファン層」(裾野)を広げることに繋がります。YWCAが教会と同じ課題を抱えているとすれば、何らかの興味関心は持ちつつ、実際に敷居をまたいで行動するまでには至らない人々こそ「伝わるコトバ」を発信すべきでしょう。それは、将来的に共に活動する仲間を増やすために、今すぐにも取り組まなければならない課題ではないのでしょうか。

私なりに頑張ってるのに、女の人生ハードル高すぎ!

「隣の正社員と同じ仕事、なのに待遇違いすぎ!」
「仕事もして子育てもして、家も私もいつもキレイ? あるわけない!」
「女の働き方改革の対象って、結婚も子どももありが前提でしょ?」

フツーに幸せな暮らしがしたいだけなのに、乗り越えなやい!ないハードルがいっぱい……。高い壁にぶつかった女性たちを守るアラフォー弁護士が憲法を味方に、私らしく生きるコツを教えます。



ナビゲーター・和井田若子(弁護士)
YW法律事務所。1977年生まれ。女性の権利の向上に詳しく、さまざまな「モヤモヤ」の解決に力を注いでいる。親しみやすい語り口で好評各地で講演。保育園をセーフキングマザー。

TIME : 13:00~14:00 聞きたい! 話したい! みんなのモヤモヤ
14:00~15:00 知ってク! 私たちの味方 憲法のおはなし

DATE : 2018年3月10日(土) 12:30開場 部分参加OK!
PLACE : 日本YWCA セーフ・スペース (JR 神奈川駅より徒歩4分)
FEE : 500円 (コーヒー・手作りのスイーツ付き)
※事前申し込み不要。初来者、お友達も大歓迎!

主催・お問い合わせ : 公益財団法人 日本YWCA
〒101-0062
千代田区神田神保町1-8-11
東京YWCA会館302号
電話 : 03-3292-6121 ファックス : 03-3292-6122
Eメール : office-japan@ywca.or.jp HP : www.ywca.or.jp



YWCA (Young Women's Christian Association) は、モリス・教を基盤とし、世界中の女性が言論や文化の壁を越え力を合わせ、女性の社会参画を促進、人権や健康や福祉が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

知っておきたい! 「強い味方」

対象 伝える相手はどんな人

- 憲法に関する知識は学校で学んだ程度
- 憲法をめぐるニュースを見て少し気になっている
- 今の社会と自分の生活にモヤモヤしている
- 20~30代の女性
- 子ども連れ歓迎
- おひとりさま歓迎

どのようなチラシにするか

- 女性の目に留まりやすい、キャッチーなもの
- 対象の女性たちが「自分に関係のあることだ」と思えるもの
- 堅苦しい勉強会ではなく、親しみやすい憲法のおはなし会であること
- 市民団体や政治団体をイメージさせない

掲載データ

開催日/開始終了時間/会場名/アクセス情報/講師の名前とプロフィール/参加費/申込み/対象/問い合わせ先/主催

創造力より想像力!?

最初に「伝えたい相手」を明確にして、その相手が「どういう人」なのかを具体的に想像しました。相手は「憲法に関心が低い」ので、YWCAの女性にはあまりいないタイプ。でも社会に対して「モヤモヤ」しているのは同じ。相手との共通点が見えたら、コトバも見えてきました。ただ考えていると「独りよがり」になりがちなので、周りの人に忌憚のない意見を求めることが必要でした。もし「相手」が自分の周りにいないタイプならば、対象層のSNSやメディア(サイトや雑誌)などから「声」を拾うのもアリでしょう。チラシ作りは「創造力」かもしれませんが、伝わるコトバ探しにおいては「想像力」が求められていると思います。



インドYWCA全国総会レポート

暴力に立ち向かう

女性たちの決意

2月11日から13日まで、インドのゴアで「第30回インドYWCA全国総会」が「暴力に立ち向かう女性たち」をメインテーマに開催された。この総会に招待された日本YWCA副会長が3日間の様子を報告します。



朝の礼拝。色鮮やかなサリーをまとった女性たち

インドYWCAとの友情と交流を深める

近年、日本YWCAはインドと交流を続けてきました。2013年のYuva Hubba(環境に関するユースのリーダーシッププログラム)に2名、昨年行われた「アジア・ユースフォーラム2017」には1名のユースを派遣した一方、インドからは2013年の「ひろしまを考える旅」にスタッフとユース2名が参加。また、2011年の「さようなら原発一千万人署名」には目標人数に近い署名が寄せられました。これまで培ってきたインドYWCAとの友情と交流をさらに深めるのが今回の総会参加の目的です。

共に学び、祈り、食卓を囲み、語り合う

インドYWCA全国総会は4年に一度、地域の持ち回りで開催されます。今回の開催地ゴアは文化、宗教、民族も気候も多様性に富むインド亜大陸の中でも、長らくポルトガルの支配下にあり、ポルトガル文化とキリスト教の影響が今も色濃く残る地域です。会場のセンターのすぐ近くには、日本にキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師、聖フランシスコ・ザビエルが眠るボム・ジェズ教会があり

ました。インド各地から集まった約300名の参加者がそれぞれに色鮮やかなサリーを身にまとう様子は圧巻です。全国総会の内容は日本のYWCAと同様で、過去4年間の活動を振り返り、今後4年間の活動計画・予算を立て、活動を主導するリーダーを選びます。会則改定をめぐって白熱した議論が交わされる場面もありました。地区が担当する朝の礼拝、地域の特産品を販売するバザー、ゲスト楽団の演奏や地区ごとの出し物で大いに盛り上がった文化交流会……共に学び、祈り、食卓を囲み、語り合うことがYWCAの原点であることを再認識しました。

女性への暴力を決して許さない

全国総会で特に印象的だったのが、基調講演やワークショップ、礼拝に至るまで、すべてのプログラムがメインテーマの「暴力に立ち向かう女性たち」に沿って企画されていたことです。3部からなるパネルセッションは、それぞれ女性に対する暴力(VAW)をなくす取り組みの3つのステージ(予防、法の施行、社会復帰)に焦点を当て、ゲストスピーカーから「VAWへの意識向上と予防のためのポジティブなジャーナリズム」、「職場における女性のセクシュアルハラスメン

ト」等、多様な視点から話を聞き、問題への理解を深めることができました。

インドの女性に関する国内法、政策は整備されつつあり、女性首相・大統領も輩出していますが、2017年のジェンダーギャップ指数は世界144カ国中108位(日本は114位)とジェンダー平等への道のりは遠いのが現状です。ダウリー(結婚持参金)制度、伝統的な価値観、人口の男女比不均衡、インド映画等のメディアにおける女性の描かれ方など、課題も多いようです。日本YWCAからも地域のVAWへの取り組みや沖縄での米軍兵士による性暴力の問題を紹介させていただきました。総会参加者一人ひとりの、女性への暴力を決して許さないという強い決意を感じた3日間でした。

日本YWCA副会長 吉田亜希



全国からやって来る参加者たちをモニュメントがお出迎え

オリーブ収穫プログラム2017レポート

パレスチナで
感じた

愛の風

パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同アクション「オリーブ収穫プログラム」。毎年10月に開催されるこのプログラムに、2017年は京都YWCAから1名が参加した。パレスチナの人々にとって「生活の源」であるオリーブを共に摘み、語り合い、食卓を囲んだ10日間を振り返る。



違いを超えて世界中から集まった参加者たち

「聖地」で生きる人々

トランプ米大統領がエルサレムを「イスラエルの首都として認める」とした発言からパレスチナでの流血事件のニュースを見るたびに、昨年10月にパレスチナでオリーブを収穫したことを思い出します。

昔から「聖地」と言われ宗教的に大事な場所であり、同時に個人が「生きる場」として大事にされてきた土地です。しかし、経済・政治・軍事的に力を持つイスラエルによって、土地や家屋の強制的な収奪、不法な入植、分離壁の建設と封鎖などの人権侵害が続いています。特に弱者である子ども・女性が多く被害を受けています。この人権問題について国際社会に声を掛けて共同対応をするために、パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAは、JAI (Joint Advocacy Initiative)を設置して共同アクションを起こしています。このプログラムもその一つです。

パレスチナの家族と共に

世界から国・世代・宗教などの境界を超えて80人ほどの参加者が集まりました。国連を始めパレスチナで活動をしている団体による現状の報告や、「声を上げる運動」を聞きました。パレスチナにはメディアを通して事実を知らせる映画などの動きと発信があることを知りました。そして、参加者は2グループに分かれて政治の地と聖地を訪問し、パレスチナの人々に出会いました。その中のいくつかの家族と一緒にオリーブを収穫して、それぞれのストーリーを聞きました。自由に自分の土地に入れないワド・フケン家族と一緒に収穫した後、夫人の手作りのお昼をオリーブの木の下で食べたことが忘れられません。ディト・ジャラ家族は、先祖代々住んでいた土地がイスラエルに占領され、別の地域に住まざるを得なくなりました。一家のお父さんと言葉は通じませんでしたが、共に収穫したことを思い出します。



アル・ワラジャ家族とオリーブ収穫

アル・ワラジャ家族の子どもと遊んだこと。すぐ近くに銃を持ったイスラエル人がいる地で、三世代四家族が共に豊かな農業をしているアル・カダー家族。彼らが育てた上等なオリーブも忘れられません。

Come, and See

外国から来た私たちの活動は、収穫の手伝いを超えて、パレスチナの家族を守ることもありました。共に汗を流して収穫するのはオリーブのみではなく、笑顔、達成感、友情であったと思います。一緒に食事をしながら家族のヒストリーを聞き「来てくれてありがとう」「忘れないで」「また来てね」とかけられた言葉は、今でも心に残っています。現地の人々、参加者達の温かい愛で、心が満たされたように感じました。

近いけれど遠い国、日本に住む私に隣人を愛することをもう一度考えさせてくれた旅でした。目を閉じるとパレスチナのオリーブの木に登って収穫していた時を思い出します。太陽、そしてたまに吹く風は、パレスチナの人々の愛のようです。パレスチナは世界の人々に「Come, and See」と声を掛けています。ぜひ、皆さんもパレスチナに行って、愛の風を感じてみてください。

京都YWCA職員 張善花



木の下にシートを敷いて摘み取る